第7章　関連事業

関連事業の概況

NHKの関連団体は，それぞれの事業分野でNHKの業務を補完・支援し，NHKとともに豊かで多様な放送文化の創造に努めることを基本的な役割としている。

NHKの業務の効率的推進により経費の節減を図ると同時に，放送のデジタル化や，多メディア化等が進んでいく中でNHKのソフト資産，ノウハウの利活用や社会還元を進め，副次収入等の財政的寄与により視聴者の負担を抑制していくことを目標としている。

09年度からの３か年経営計画では，グループ経営の最適化を目指し，子会社や関連公益法人の業務の見直しを進め，計画的に再編・統合を行うこととしている。また，NHKと子会社等の取り引きについても，さらに透明性を高めていく。

なお，09年４月，「NHK情報ネットワーク」と「日本文字放送」の２社を「株式会社NHKグローバルメディアサービス」として，「NHK共同ビジネス」と「NHKオフィス企画」の２社を「NHKビジネスクリエイト」として統合した。

１．関連事業の体制

09年４月時点の関連団体の数は30団体。その内訳は，子会社が15社，関連会社が６社，財団法人等が９団体となっている。

なお，関連団体の総従業員数は09年３月末現在約5,999人である。（⇒p.798）

２．関連団体の決算概要

08年度の関連団体決算は，健保・共済会を除く30団体の単純合計額で，売上高（事業収入）2,877億円（対前年度190億円増），当期純利益（正味財産増減額）72億円（対前年度５億円増）であり，増収増益となった。

NHK副次収入への寄与額は，メディアミックス権料の減などにより，前年度より２億円減の70億円となった。

今期決算に伴う配当は，対前年度43億円減の30億円で，うちNHKの受取額は，対前年度35億円減の17億円となった。

３．団体に対する出資など

08年度は，改正放送法第９条の２の規程に基づき，４月に外国人向け映像国際放送を行う子会社「㈱日本国際放送」を設立した。NHKの出資額は２億円。関連団体以外への出資・出捐（えん）については，一般放送事業者の教育・教養番組のいっそうの充実を図ること等を目的とする財団法人「放送番組センター」に8,279万円の出捐を行った。

Ⅰ．関連団体への番組制作委託

NHKでは，コンパクトな番組制作体制の下で質の高い放送番組を安定的に確保するため，08年度も07年度同様，関連団体への番組制作委託を進めてきた。

また，番組のいっそうの多様化を図るため，関連団体を通じて，外部のプロダクションにも番組企画提案を求め，一部の番組制作を委託した。

「NHKエンタープライズ」には，『NHKスペシャル』などの大型企画番組，ドラマ番組（『土曜時代劇～オトコマエ』など），芸能番組（『爆笑オンエアバトル』など），アニメ番組（『おじゃる丸』など）の制作，購入番組の日本語制作などの委託を行った。

「NHKエデュケーショナル」には，『きょうの料理』『おかあさんといっしょ』『NHKカルチャーアワー』『リトル・チャロ～カラダにしみこむ英会話』など，生涯学習や教育・教養に関する番組の制作を委託した。

「NHK情報ネットワーク」には，大相撲，プロ野球をはじめとするスポーツ番組や，『ワールドニュースアワー』『BSニュース』『おはよう世界』などのニュース・情報番組を委託した。

「総合ビジョン」には，『忍たま乱太郎』『今日からマ王！』などのアニメ番組の制作を委託した。

広報番組は，「NHKサービスセンター」に『ビタミンETV』『NHKプレマップ』をはじめ，各種番組スポットなどの制作を委託した。

また，08年より「NHKプラネット」には，『にっぽん熱中クラブ』などの全国放送番組と『てれまさむね』などの地域放送番組を委託した。

同様に08年より「日本国際放送」には，『OUT & ABOUT』などの国際放送番組を委託した。

Ⅱ．放送番組等の二次展開

１．映像・音声商品等の発行

「NHKエンタープライズ」からは，NHKビデオ・DVDの名称で，大河ドラマ『篤姫』，『NHK

スペシャル～女と男』のほか，『連続テレビ小説～ちりとてちん』『小澤征爾指揮　ベルリン・フィル「悲愴」(ブルーレイ)』などの映像商品を発行した。

また「NHKサービスセンター」からは，NHK CDの名称で，『基礎英語１～３』『徹底トレーニング英会話』などの月刊語学教材のほか，『名曲アルバム』『ラジオ深夜便セレクション』などの音声商品を発行した。

２．放送番組および素材の提供

（１）企業・団体への番組の提供

一般企業・団体の研修用や展示，イベント用に「NHKサービスセンター」を通じて放送番組を提供した。

（２）BS・CS放送事業者への番組提供

「NHKエンタープライズ」を通じて，CS放送事業者等に大河ドラマ『真田太平記』，『連続テレビ小説～純情きらり』『NHKスペシャル～新シルクロード』などを提供した。また，「NHK情報ネットワーク」からは，『日本オープンゴルフ』『日本女子オープンゴルフ』などを提供した。

（３）CATVへの番組提供

「NHKエンタープライズ」を通じて，『連続テレビ小説～ちゅらさん』や『きょうの料理』などを提供した。

（４）モバイル放送への提供

モバイル放送株式会社に対し，１日平均８時間程度のニュース・番組を提供した。なお，モバイル放送株式会社への番組提供事業は，08年９月で終了した。

（５）機内上映用の提供

航空機の旅客サービス用として，「NHK情報ネットワーク」「NHKサービスセンター」を通じて日本航空，全日本空輸などへ『NHKニュース』『美の壺』などを提供した。

（６）番組素材の提供

民間放送局および一般企業・団体への番組素材の提供を「NHKサービスセンター」を通じて，また「放送大学学園」への番組素材の提供を「NHKエデュケーショナル」を通じて行った。

（７）キャラクターの使用許諾

「NHKエンタープライズ」が，「どーもくん」，『みんなのうた』の「おしりかじり虫」等のキャラクターの使用許諾を行った。

３．デジタル事業

「NHKエンタープライズ」を通じて，ブロードバンド事業者に『その時　歴史が動いた』や『NHKスペシャル』などを提供した。また，「NHK情報ネットワーク」などが行う携帯電話等のモバイル端末向けのサービスに対し，番組の楽曲や映像クリップなどの提供を行った。

４．番組・素材の海外提供

関連団体を通じて，番組とニュース素材を海外の放送機関などへ提供した。「NHKエンタープライズ（国際メディア・コーポレーションに再委託）」からはアニメやドラマ・自然番組などを提供，「NHKエデュケーショナル」からは教育番組を提供，また「NHK情報ネットワーク」からは「NHKワールドプレミアム」を配信した。

開発途上国の放送機関などには，「NHKインターナショナル」から「番組国際ライブラリー」の保存番組を公的資金によって提供した。

番組素材については，海外の放送局や一般企業・団体に対して「NHKインターナショナル」を通じて提供した。

５．放送番組関連の出版

『ためしてガッテン』『篤姫』『連続テレビ小説～ちりとてちん』『プロフェッショナル　仕事の流儀』『英語でしゃべらナイト』などの番組に関連した出版物が，「日本放送出版協会」や外部出版社から発行された。

関連団体

Ⅰ．子会社

１．NHKエンタープライズ

08年度は，テレビ，ラジオ合わせて9,676本の放送番組を制作した。『世界一周！地球に触れるエコ大紀行』は，「日めくり版」を地上波で放送する一方，世界各地からの中継をハイビジョンで放送した。このほか，テレビ地上波では，『NHKスペシャル』の「病の起源」「奥アマゾンの神秘サル王国の謎に迫る」「サンゴの悲鳴が聞こえるよ」，『アートエンターテインメント　迷宮美術館』『ダーウィンが来た！生きもの新伝説』，『土曜時代劇』の「オトコマエ！」「陽炎の辻２」，『正月時代劇』の「陽炎の辻スペシャル」，『土曜ドラマ』の「トップセールス」「上海タイフーン」，『ドラマ８』の「乙女のパンチ」「七瀬ふたたび」，『スタジオパークからこんにちは』『みんなのう

た』『金曜バラエティー』『東京カワイイ★TV』『カンゴロンゴ』『いよっ日本一！』など。

衛星放送では，『週刊ブックレビュー』『地球アゴラ』『BS世界のドキュメンタリー』『Shibuya DeepA』『ジェネレーションY～地球未来図』『世界ふれあい街歩き』『ザ少年倶楽部』『爆笑オンエアバトル』など。

『海外ドラマシリーズ』では，「ザ・ホスピタル」「ファン・ジニ」「名探偵モンク」「ERXⅢ救急救命室」「太王四神記」「アグリー・ベティ」など。

ハイビジョンでは，『アインシュタインの眼』『双方向クイズ　にっぽん力』『ウィークエンドシアター』『100年インタビュー』『夢の音楽堂小澤征爾が誘うオペラの世界』，『ハイビジョン特集』の「薬師寺」「シリーズ世界サンゴ礁紀行」「ハプスブルク帝国」など。

アニメでは，『おじゃる丸』『メジャー』『テレパシー少女　蘭』『獣の奏者エリン』など。『メジャー』は劇場版の制作・公開も行われた。

このほかに，NHKからの委託により，原盤制作，権利処理等のNHKオンデマンド関連業務を行った。

自主事業としては，「ABUロボコン2008インド・プネ大会」「デジタルアートフェスティバル」「東京JAZZ2008」「ヨコハマEIZONE」「ごはんCUP」「ようこそ技能五輪メダリスト」「ロックの学園」などの数々のイベントや，「21世紀のエネルギーを考える」「認知症フォーラム」などのシンポジウムを開催した。

パッケージ事業では，『NHKスペシャル～学徒兵　許されざる帰還』，劇団四季ミュージカル『昭和三部作』などの意欲的なDVD作品を並べる一方で，『サラリーマンNEO』『ザ・ホスピタル』等の作品を販売した。なかでも『ちりとてちん』『篤姫』の完全版は放送での評判も相まって人気を呼んだ。ブルーレイディスクでも，関口知宏の「列島縦断　鉄道乗りつくしの旅」「月周回衛星“かぐや”が見た月と地球」「里山」などその特性を生かす商品を投入して普及に資する品ぞろえに努めた。なかでも『小澤征爾／ベルリンフィル「悲愴」』は内容とともに音質・画質を評価され，いくつかの賞を受賞した。

キャラクター事業では「どーもくん」の海外展開を推進したほか，「フェリーチェス」のNHK環境キャンペーン「SAVE　THE　FUTURE」への展開や，「リラ　プラップ」のアニメ「がおがおぶーっ」の放送に加え出版，商品，モバイル等への展開に取り組んだ。

CATV事業ではケーブルテレビ事業者89社に，約9,500本の放送番組を頒布した。また，BS／CS放送事業者へ約1,700本の放送番組を販売した。

VODへの番組提供はSTB用として6事業者に532タイトルを，パソコン向け配信事業者7社に534タイトルを提供した。そのほか，3配信事業者に53タイトル配信した。

NHKの人気番組関連コンテンツを総合的に楽しめる携帯サイト「NHKストリート」は，事業開始より3年を迎え，NHKケータイや『NHK紅白歌合戦』などの番組との連動にも取り組み，会員数増を図った。

アーカイブス，権利処理事業では，番組アーカイブスなど110本の放送許諾と192本の公開許諾を取得し，NHKの「公開ライブラリー」での公開は合計6,388本となった。

2．NHKエデュケーショナル

教育テレビを中心に合計9,146本の放送番組を制作した。教育テレビでは新番組『リトル・チャロ～カラダにしみこむ英会話』『土よう親じかん』『趣味の園芸やさいの時間』『シャキーン！』をはじめ，『新日曜美術館』『美の壺』『おかあさんといっしょ』『にほんごであそぼ』『きょうの料理』『おしゃれ工房』『趣味の園芸』『趣味悠々』『囲碁の時間』『将棋の時間』『科学大好き　土よう塾』『きょうの健康』『知るを楽しむ』『日本とことん見聞録』『テレビ高校講座』『語学講座』など。また，特集として『ETV特集』の「石ノ森章太郎」「作家　辺見庸」などを放送した。

総合テレビでは『生活ほっとモーニング』『解体新ショー』『ドキュメント　にっぽんの現場』や新番組『リトル・チャロ〈アニメ〉』のほか，特集では『絆探して夫婦旅』を，『NHKスペシャル』では，「よみがえる浮世絵の日本」「源氏物語黄金絵巻の謎」「兵士はどう戦わされてきたか」「引き揚げはこうして実現した」「桂離宮　知られざる月の館」などを放送した。

衛星放送では『ハイビジョン特集』で「女形という夢～坂東玉三郎と梅蘭芳」「ベス・チャトー荒れ地で育む奇跡の庭」を放送したほか，特集として「没後10年黒澤明」関連番組や「夢の美術館江戸絵画」，『BSドキュメンタリー～アジアに生きる子どもたち』などを放送した。

このほか，「東京国際キルトフェスティバル」や「国際バラとガーデニングショウ」「食と地域を考えるフォーラム」などのイベントの企画・運

営，放送大学の授業番組の制作を行った。

3．NHK情報ネットワーク

NHKの委託でBS1を中心とするニュース・情報番組の制作，スポーツ中継・番組制作，デジタル放送のデータ制作，映像編集，海外送受信のほか，モバイル・インターネットなどのデジタルコンテンツ関連事業等多角的な業務を展開している。

モバイル事業の携帯サイト「NHKニュース＆スポーツ」は，09年２月からサービスを開始した。これは，NHKニュースをベースにスポーツ情報や速報メールなどの付加サービスを有料サービスの柱としている。

番組制作のニュース系では08年度，NHKオンデマンドのニュース系の登録業務や全中ニュースの総合演出業務も受託した。また，『おはよう日本』の「まちかど情報室」の制作を全面的に受託し，『NHKスペシャル』では「ミラクルボディー～世界最強の男たち」「熱闘413球～女子ソフト・金メダルへの軌跡」「幻のサメを探せ～秘境・東京海底谷」などを制作した。

08年７月の洞爺湖サミットでは，スポーツ事業部と企画事業部が共同で各国代表の現地本部や報道機関に向けて生中継映像や行事情報を提供する「サミット映像・情報システム」を担当した。

08年８月の北京オリンピックではGTV・BS1・HV・R1の４波で778時間を超える中継放送と関連番組の制作を担当した。

MLB中継では開幕からワールドシリーズまで233試合を放送，日本のプロ野球は139試合，サッカーはJリーグ42試合，天皇杯19試合，ワールドカップアジア予選最終予選10試合，ACL16試合の放送を担当した

NHKのニュース・番組を海外に配信する「NHKワールドプレミアム」は08年度，世界101の国と地域の237の放送事業者に24時間配信を行った。

国際回線のコーディネート事業では，洞爺湖サミットのホスト支援業務や北京オリンピックのJC，NHKユニの回線業務も行い，通常の総理大臣海外訪問のプール派遣を加えると例年の1.5倍の要員を派遣した。

09年４月１日，㈱日本文字放送と合併し，㈱NHKグローバルメディアサービスとしてスタート。公共放送NHKの報道部門の支援業務を中心に，字幕やデータ放送などデジタル時代のコンテンツ制作，携帯の有料サイト「NHKニュース＆スポーツ」の事業も行っている。

4．日本文字放送

NHKの委託により，番組に文字を付加した字幕番組の制作およびデジタルデータ情報の制作などを行った。

このうち字幕制作は，総合・教育・ハイビジョンのこれまでの番組に加えて，08年度，新たに総合テレビの生番組『きょうの料理プラス』『趣味の園芸プラス』の字幕制作を行ったほか，北京オリンピックの中継についても生字幕を制作した。これにより総合テレビの字幕付与率は53%になった。

一方，データ放送については，地上デジタルデータ放送のコンテンツ制作を甲信越，東北，近畿，中国のNHK各局から受託し制作した。

また，インターネットに接続したデータ放送に，全国12万か所余りの避難所の情報を地図とともに表示する「避難所情報」についても，全国データ化の完成にめどをつけた。

なお，「日本文字放送」は，NHKの報道分野を包括的に担う関連会社として，09年４月１日に「NHK情報ネットワーク」と合併，「NHKグローバルメディアサービス」としてスタートした。

5．日本国際放送

08年４月，放送法の改正を受けて，日本から世界に向けた情報発信の強化を目指す「株式会社日本国際放送（JIB）」が設立された。そして10月には在京民放４社や商社など15社が新たに株主として加わり，いわばオール・ジャパンの事業会社として本格的なスタートを切った。

JIBはNHKからの委託を受けて，NHKワールドの一部の番組制作や海外への伝送業務，それに世界各地でNHKワールドを見ることができるようにする受信環境整備などの業務を行うほか，NHKワールドと同じチャンネルにJIB独自の放送枠を持ち，民間の資金で制作された番組や独自制作の番組をCM付きで放送する。

09年２月２日からはNHKワールドの24時間完全英語化放送開始に合わせ，JIBの独自枠での放送が始まり，在京民放各社の協力を得て制作した７日連続の特別番組『Japan in the first person』や『Delicious NIPPON』（８回シリーズ）を放送した。

JIB独自枠で放送される番組やCMについては，NHKの番組基準に準拠したJIB番組基準，日本民間放送連盟の広告基準に準拠したJIB広告基準を制定した。

また，３月には第１回のJIB番組協議会を開催し，独自番組の内容について学識経験者の見解を伺うなどし，公正，公平を堅持して幅広い視点で日本やアジアの情報を世界に向けて発信することに努めている。

６．NHKプラネット

NHKの地域子会社は，地域放送サービスの充実と地域情報の全国・海外発信強化を目指して，08年４月１日，㈱NHKきんきメディアプランを存続会社として，㈱NHK中部ブレーンズ，㈱NHKちゅうごくソフトプラン，㈱NHK九州メディス，㈱NHK東北プランニング，㈱NHK北海道ビジョンが合併し，㈱NHKプラネットとして新たなスタートを切った。新たな本社は東京都渋谷区神山町4-14とした。

東京本社では，『にっぽん熱中クラブ』『クローズアップ現代～急増する“崩壊”マンション』国際放送番組『Out＆About』などの番組を制作した。

近畿総支社では，『その時　歴史が動いた』『俳句王国』などの番組制作事業，「源氏物語ミュージアム　リニューアル事業」などの映像ソフト事業，「源氏物語千年紀展」などの展覧会事業，NHK大阪ホールの運営管理・ホールイベント公演を実施した。

中部支社では，『中学生日記』『サタ★テン』『めざせ！会社の星』などの番組制作事業，「NHK夢いっぱいワールド」「とっておきのクリスマス」などの事業業務，NHK地域映像アーカイブスの岡崎市立図書館への導入などの映像ソフト業務を実施した。

中国支社では，『ドラマ　帽子』『百歳バンザイ！』『広島市民球場の51年』『40年目の原爆劇』などの番組制作事業，「六角紫水展」などの展覧会事業，あずきミュージアム，石見銀山世界遺産センターなどの展示映像制作事業を実施した。

九州支社では，『熊本能　清正』『埋もれた地下兵器工場』『水俣・土本典昭監督の43年』などの番組制作事業，「島津の国宝と篤姫の時代展」「天璋院篤姫展（鹿児島会場）」などの展覧会事業を実施した。

東北支社では，『ふだん着の温泉』『てれまさむね』『ここに技あり』『NHK東北民謡コンクール』などの番組制作事業，「特別展　平泉」などの展覧会事業，『新型インフルエンザ解説資料映像』などの映像制作事業を実施した。

北海道支社では，『さわやか自然百景』『ほっからんど北海道』『PMF2008』『ワタシが好きなHOKKAIDO』などの番組制作事業，北海道洞爺湖サミットにおけるマルチワンセグメントサービスの実証実験関連事業などを実施した。

７．NHKプロモーション

放送関連イベントの企画・運営をはじめ，展覧会・博覧会，コンサート，文化フォーラム・講演会などのイベント事業を中心に，展示・映像ソフト制作などを実施した。

08年度は，展覧会・博覧会では，「天璋院篤姫展」「国宝薬師寺展」「KAZARI　日本美の情熱展」「北京故宮　書の名宝展」「特別展　源氏物語の1000年―あこがれの王朝ロマン―」「金GOLD黄金の国ジパングとエル・ドラード展」など。

番組関連イベントでは，「NHK音楽祭」「NHKニューイヤーオペラコンサート」「NHK古典芸能鑑賞会」「NHKおかあさんといっしょファミリーコンサート」「NHKシアターコレクション」など。

このほか，「公共文化施設イベント」「第９回地域伝統芸能まつり」「第６回国際文化フォーラム」「選定保存技術関連シンポジウム」「オリンピックコンサート2008」「都道府県対抗障害者駅伝」「ボストン美術館・浮世絵デジタル事業」「第23回国民文化祭・いばらき2008開・閉会式」「ふるさと回帰フェア2008」「ふるさとの食にっぽんの食全国フェスティバル」を実施したほか，『中越地震から４年』の映像制作や『ケータイDE国語力アップ』などのモバイル向けコンテンツ制作を行った。

８．NHKアート

NHKテレビ番組の美術に関する業務（装置・装飾・扮装・CGなど）を行う総合美術会社。番組としては大河ドラマ『篤姫』，『連続テレビ小説～瞳』『第59回NHK紅白歌合戦』『NHKスペシャル』など。「渋谷DEどーも’08」「教育フェア2008」「大河ドラマ　天地人博」などのNHK番組関連イベントの舞台，展示セットの制作にも取り組んだ。

また，自主事業部門では，「東京国際キルトフェスティバル2009」「テーブルウェア・フェスティバル2009」「世界らん展日本大賞2009」などの企画・設計・施工・運営業務を行った。NHKホールや神奈川県民ホールなど10か所のホール舞台機構運営（舞台，照明，音響）も継続した。

9．NHKメディアテクノロジー

08年4月1日，テレビ・ラジオ，データ放送等の制作・送出およびロケや中継業務などを行ってきた「㈱NHKテクニカルサービス」と，番組の編成・制作，ニュースの編集・送出，受信料の収納管理など，情報システムの設計・開発・運用を行ってきた「㈱NHKコンピューターサービス」が統合し，放送技術とIT技術を併せ持つITソリューション提供企業「㈱NHKメディアテクノロジー（MT）」として新たな一歩を踏み出した。

本格的なデジタル放送時代に向け，新会社の特徴を生かしながら08年7月，洞爺湖サミットの国際放送センターの業務を支援したほか，12月に開始されたNHKオンデマンドの開発・保守・管理・運用の業務対応を行った。

また，情報セキュリティー強化とIT統制推進の取り組みとして，4月にMTとして“プライバシーマーク”を，12月には，NHKの基幹系情報システムの運用を担う部署で“情報セキュリティ・マネージメントシステム”認証を取得した。

放送技術関連業務では，『七瀬ふたたび』『陽炎の辻2』『Q.E.D　証明終了』などのドラマをはじめ，スポーツからエンターテインメントに至るまで幅広い番組制作に携わるとともに，国内はもとより，国際放送「NHKワールド」の送出にも従事した。

ラスベガスで開催された全米放送事業者協会による総合展示会（NAB）や，カンヌで開催された国際テレビ番組・デジタルコンテンツ見本市などで立体ハイビジョン（3D）を展示するなど，3Dの積極的な海外展開を図った。5月の全仏テニス，8月の北京オリンピックでは自主事業としてソフト制作も手がけた。さらに，ハイビジョンの4倍の解像度を持つ高精細コンテンツ制作にも取り組んだ。

情報システム関連業務では，09年1月，NHKの放送系基幹情報システムである番組技術システム・編成情報システムの番組情報を蓄積しているデータベースを22年ぶりに刷新した。

2月には，事業所割引導入や家族割引拡大など，NHKの受信料体系変更に伴う多様な支払いに対応した「請求・収納・未収管理」システムを開発した。

08年10月には，NHKの項目ニュースデータ（動画・静止画・原稿など）を外部事業者向けに提供するニュースデータ提供システムを開発し，09年2月からは，ニュース速報も提供されるようになった。

TVのニュース速報のスーパーと同時に，同じ内容をNHKの公開ホームページのトップページとニュースページならびに携帯ホームページに表示する「ネット速報システム」の開発も2月に行った。

10．日本放送出版協会

日本放送出版協会は，NHKの放送番組テキストおよびNHKの放送に関連した書籍・雑誌，放送関連以外の書籍・雑誌等の出版，販売のほか，音楽著作権の管理等を主業務としている。08年度放送テキストは『きょうの料理』等の家庭誌，『基礎英語1，2，3』をはじめとする英語系および英語以外の語学誌，『趣味悠々』『知るを楽しむ』等の趣味・教養系を含め，年間100点余のタイトルを発行。なお，09年度4月号（3月発売）から，家庭誌系の発売日をこれまでの毎月16日発売から21日発売に変更。また『基礎英語1，2，3』では，通常のテキストとは別に，「CD付きテキスト」という新形態のテキストを発刊した。

放送関連の雑誌では，大河ドラマ・ストーリー，連続テレビ小説ドラマ・ガイド，韓国ドラマ・ガイドを刊行しているが，08年度は『篤姫』が好評だったため，通常の前・後編に加えて10月にドラマストーリー「完結編」を刊行。一方，12月には09年大河ドラマ『天地人』のドラマ・ストーリー前編を刊行した。また，健康関連ムック『NHKここが聞きたい！名医にQ』シリーズを新たに刊行。書籍では『美の壺』などのシリーズのほか，『NHKスペシャル』関連本などのドキュメンタリー書を刊行した。

放送関連以外の書籍では「NHKブックス」「生活人新書」などの書籍シリーズを定期的に刊行。

08年度は『生活人新書　金融大崩壊』が話題を呼んだ。そのほか，翻訳書では『マイクロ・トレンド』など15点以上を刊行。また，11月には大河ドラマの原作『天地人』新装版を刊行し，ベストセラーとなった。一方，雑誌では，家庭誌の別冊や，生活実用系のムックなどを例年並みに刊行した。

11．NHK共同ビジネス

放送施設管理業務などを通じ「安全・無事故」「快適な環境の提供」および「公正・透明・経済性」に意を用いて次の業務を実施した。

NHK放送センター，放送技術研究所，千代田放送会館，福岡放送センターなどの警備，受付，

清掃，メール業務や電気，空調，給排水などの設備運用管理をはじめ，緊急報道や放送番組制作などのための中継車両などの運転とその運行管理業務を，円滑かつ正確に実施した。

また，NHKと連携して省エネ対策，リサイクル率90%目標達成など環境経営を推進した。

NHK関連団体などの入居ビルでは，耐震・インフルエンザ対策に取り組むとともに，消防訓練や防災担当者会議を開催し防災意識の向上に努めた。

また，AED（自動体外式除細動器）や人感センサー式自動点滅機を設置するなど，安全・省エネに配慮した施策を実施した。

09年4月1日，㈱NHKオフィス企画と統合し，㈱NHKビジネスクリエイトとしてスタート。総合事務センター業務などの事務支援と，会館運用業務などのインフラ支援を一元的に実施するNHKの「総合サポート会社」を目指す。

12. NHKアイテック

放送・通信・情報分野の「総合技術会社」として，送信，受信，映像，建築関連技術をベースとして，「設計」「施工」「保守」の3分野を一体とした事業を展開した。

地上放送のデジタル化事業を最も重要な業務として，NHK，民放の地上デジタル中継局の建設やNHK共聴施設のデジタル化と自主共聴の調査等を支援した。総務省テレビ受信者支援センターからの受託業務の実施，難視聴解消等のためギャップフィラーシステムの開発・実用化を進めた。

また，ケーブルテレビ局や民放，自治体等に向けて自社開発した低価格な「デジタル送出システム」「バーチャルシステム」等を受注，施工した。

海外業務では，ODA案件のベトナム国テレビ放送センター建設工事の施工監理を実施した。

13. NHK文化センター

NHK文化センターは，全国56教室（09年3月末現在）で，教養・趣味・暮らし・芸術・健康など，6万8,000余りの多彩な講座を展開している。会員は全国で約32万人に上る。

08年4月から，「3か年経営計画」を策定し，NHKの放送と連動する講座の開発と各放送局と連携した地域への貢献などを進めている。

09年が創立30周年となるのを機に，講座事業にブランドロゴ「NHKカルチャー」（キャッチフレーズ「好奇心の，その先へ」）を導入した。また，全国規模の受講者アンケートを行い，お客さま満足度の向上に努めた。

08年12月，兵庫県に「西宮ガーデンズ教室」を新設した。大型商業施設内にある利便性を生かし，買物などのついでに受講しやすい講座を編成するなど工夫した。

また，09年4月にオープンした大阪市京橋駅前の「京橋教室」とJR岐阜駅ビルに移転しオープンした「岐阜教室」が，ともに交通の便がよいことを生かし，勤め帰りのOLやサラリーマンが学びやすいよう，夜間の講座の充実を図った。

14. NHK営業サービス

新たに7月から法人関係業務が加わり，業務が拡充したが，NHKからの受託業務を安定かつ確実に進めた。また，3か年計画の最終年度となるNHK経営計画と連動した各種営業施策を全社を挙げて支援した。

受信料の事務情報処理業務では，営業システムの安定運用を基に，プライバシーマーク取得企業として個人情報の保護の徹底を図りつつ，適正かつ効率的に業務を推進した。法人関係業務はていねいな視聴者対応や事業所割引制度の理解促進に努め，NHKの営業業績に貢献した。

一方，全国4か所のコールセンターでは，ていねい・親切な視聴者対応を基本とした電話対応業務を実施した。現場活動の各種支援では地域スタッフの募集・講習の実施や育成に向けた教育用DVDの制作と併せて，営業パンフレットの企画・編集など契約・収納活動資材を制作した。

さらに，地上デジタル放送の普及・発展に寄与するため，地上放送のデジタル化に伴い激増する視聴者からの電話による問い合わせ対応，およびアナログ周波数変更対策関連業務を受託しているが，いずれも全国2か所のコミュニケーションセンターで円滑に対応した。

15. NHKオフィス企画

主力業務の一つである台本制作をはじめとする印刷部門では，「大河ドラマ」『連続テレビ小説』などの放送台本や番組広報資料などの各種印刷物を制作したほか，『紅白歌合戦』『のど自慢』などの楽譜制作を行った。また，各種カラー印刷の業務展開を強化するとともに，ホームページ制作などデジタル関連業務の推進・拡充を図った。

NHK職員の給与計算などを行う総合事務センター業務等については，08年6月に受託範囲を拡充し，当社の事業目的の一つであるNHKの事務業務を集中して行うシェアードサービスを担う会

社としての業務運営体制が整った。

番組編成情報関連では，NHK放送全8波の編成情報の入力をはじめ，番組表・HPの編集業務，電子番組ガイド「EPG」業務などを実施した。このうち，音声波，衛星波の受託拡充に続き，教育テレビについても,08年4月から受託を拡充した。

このほか,「放送記念品」の管理業務，調達・管財業務，CDなどの音楽資料データベースの入力・作成，音楽・図書資料の管理運用業務を行った。また，NHKおよび関連団体等への「人材派遣」を実施するなど，多角的な事業運営を進めている。

09年4月1日，㈱NHK共同ビジネスと統合し，㈱NHKビジネスクリエイトとしてスタート。統合によりNHKの管理・間接部門のスリム化に対応し，NHKおよび関連団体等の「事務支援」と「インフラ支援」をトータルにサポートする体制を整備する。相互の連携で質の高い効率的な業務を展開するとともに，企業規模の拡大により，財政基盤を強化することで経営の安定化を目指す。

Ⅱ．関連会社

1．放送衛星システム

放送衛星BSAT－2a・2cとBSAT－3aの計8チャンネルで，衛星放送を着実に視聴者に届けるよう，全社を挙げて衛星の安定運用に取り組んでいる。11年以降，放送衛星BSAT－3a・3b・3cの3機体制を基本に受託放送事業を運営していく方針のもと，衛星の調達および関連設備の整備に取り組んだ。BSAT－3bは衛星メーカーにおいて製造中，BSAT－3cは設計段階である。BSAT－3cは，BS放送用中継器とCS放送用中継器を搭載する初の共同衛星であり，08年12月15日に売買契約を締結した。

また，衛星セーフティネットの受託放送事業を当社が担うこととなり，08年11月12日に予備免許通知書が交付された。

08年9月に，BSAT－2cで7～8分間程度の放送中断が2回発生したが，直ちに予備衛星（BSAT－3a）に切り替えて放送の復旧を行った。原因の究明と対策の検討を進めた結果，2回の不具合とも，偶発的な一過性の現象であり衛星の機能に問題はないと判断した。その後は安定した運用を行っている。

2．NHK名古屋ビルシステムズ

NHK名古屋放送センタービル（NHKとテナントゾーンの複合ビル）の管理・運営をするため，NHK，日本生命，ジャパンエクセレント投資法人，名古屋鉄道の4者が出資した管理会社。安全で快適なビル環境の確保，建物・設備の維持・管理，テナント対応などに当たっている。

08年度は，ビル1階プラザウェーブで行われる名古屋放送局の地域放送『さらさらサラダ』などの公開放送や各種イベントに協力した。また，冷温水発生機更新，緊急地震速報システム導入などの工事を実施した。

3．総合ビジョン

アニメーションおよびアニメーション関連番組の企画・制作を行っている。

08年度は，教育テレビの長寿番組『忍たま乱太郎』をはじめBS2『今日からマ王！』第3シリーズ，『アリソンとリリア』『タイタニア』などのアニメ番組を制作した。

アニメ関連番組では『BSアニメギガ』『BSアニメ夜話』，長時間編成の『BSアニメギガスペシャル　ルパン三世』などを制作した。

また，これらの番組をDVD化，キャラクター商品化，催し物化，出版物化，海外展開するなどメディアミックス事業にも積極的に取り組んだ。

4．Japan Network Group,Inc.（JNG）

JNGは主に，米国とカナダ地域に住む日本人に対して日本の番組を提供する目的で設立され，90年に放送を開始した。米国・ニューヨークに本社を置く。

主たる事業として，日本のテレビ番組を米国とカナダにある衛星，ケーブルテレビ会社またはインターネット・プロトコール・テレビジョン（IPテレビジョン）を経由して米国とカナダに住む視聴者に放送している。

視聴者は衛星やケーブルテレビ会社が保有するシステムを通じて放送を見ることができ，視聴契約数は7万世帯を超えている。また，米国，カナダ国内のホテルにも放送を配信しており，現在，300を超えるホテルで放送が視聴可能となっている。

5．Japan Satellite TV（Europe）Ltd.（JSTV）

JSTVは，ヨーロッパ，北アフリカ，中東，中

央アジア地域に住む日本人に対して日本の番組を提供する目的で設立され，90年に放送を開始した。英国・ロンドンに本社を置く。

Hotbird 6号という衛星やCATVを通じて60を超える国に放送を提供しており，視聴契約数は9,000件を超えている。また，同地域内のホテルにも放送を配信しており，現在，600を超えるホテルで放送が視聴可能となっている。

6．ビーエス・コンディショナル　アクセス　システムズ

略称は「B－CAS（ビーキャス）」。NHKBSデジタル放送の受信確認メッセージや有料放送の視聴，それにデジタル放送番組の著作権保護などに利用されているICカード（B－CASカード）の発行・管理を行っている。

08年度のカード発行枚数は1,893万枚。11年の完全デジタル化に向けてカード発行枚数は年々増え続け，累計発行枚数は6,295万枚となった。

社会的インフラを担う企業として，コスト削減に努め，利用者負担の軽減を図った。

Ⅲ．関連公益法人等

1．NHKサービスセンター

公共放送の普及・浸透と視聴者サービスを担う財団として，視聴者とNHKを結ぶさまざまな広報および視聴者サービス活動を推進した。

「NHK視聴者コールセンター」では視聴者からの要望・問い合わせへの迅速な対応や視聴者意向の的確な把握に努めた。

「NHKスタジオパーク」「NHKホール」「NHKふれあいホール」「NHK放送博物館」などでは来館者を対象としたイベントや多様な視聴者サービスを実施した。「NHK放送博物館」では8月に開館以来の来館者数が400万人を突破した。また，「NHKアーカイブス」では番組公開の充実に努めた。

週刊番組情報誌『ステラ』や，11月号で創刊100号を迎えた月刊誌『ラジオ深夜便』は，いっそうの充実を図った。

NHK広報番組や番組紹介スポットの制作，語学講座番組の音声テキストCDの発行，各種の番組展示や催し物，印刷物などによって広報普及活動を推進した。さらに，美術展や催し物の実施，文化・教養などの音声・映像ソフトや番組記念品の制作・頒布，落語・朗読の配信事業会社への提供など，多彩な事業を展開した。

2．NHKインターナショナル

外務省や国際交流基金など公的資金による発展途上国の放送機関への番組提供事業を基幹に，映像による国際交流事業を行うことにより，各国との相互理解の促進と，国際親善の増進に資することを目的にしている。

08年度の外国放送機関への番組提供事業は，外務省の“文化無償協力”によるパナマ，カンボジア，タジキスタンをはじめ，延べ25か国・26機関・2,263本に上った。パプアニューギニアやハイチなど地域が拡大するとともに，ロシア語やアラビア語など国際版の言語数も増えた。

また，国際協力機構や国際交流基金など公的機関に，技術協力や研修用など，放送以外の目的で利用する番組を提供した。こうした海外提供用の番組として，英語版17本のほか，フランス語版29本を制作し，“国際版ライブラリー”をさらに充実させた。

日本紹介事業では，2つの“映像祭”を実施した。6月には，ブラジル移民100年を記念した「ブラジルハイビジョン映像祭」，10月には，北京五輪で関心が高まった環境をテーマに「中国ハイビジョン・環境フォーラム」を開催し，多くの参加者にNHK番組や日本文化をアピールした。

このほか，5月には，アフリカ開発会議（TICADⅣ）の関連イベントとして，シンポジウム「アフリカの持続的経済成長に果たす政府と民間の役割」を実施。10月には，東アジア経済における中国と日本の役割について話し合う「上海・東京グローバルコンファレンス」の一回目を開催した。

NHKから国際協力業務を受託した。5月，国賓として訪日し日中首脳会談に臨んだ中国の胡錦涛国家主席については，CCTVに事前企画の段階から対応した。このほか，外国放送機関の要請に応えて取材・伝送などに協力した。また，映像素材の提供などを行った。

7月に開催された「北海道洞爺湖サミット」では，IBC（国際放送センター）の設営・運営業務を受託した。IBCへの参加メディアは92で，「九州･沖縄サミット」の51を大きく上回った。また，日伊首脳会談や「夫人プログラム」の取材のほか，各国首脳会見中継などを実施した。

このほか，NHKからの受託業務として，教育コンテンツの国際コンクールとなって初めての「第35回日本賞」の運営や，最終回となった教育

イベント「ABU未来への航海」と「アジアプロデューサー会議」の事務局業務を担当した。

国際版制作業務では，国際コンクールに参加する番組制作を受託している。08年度は，イタリア賞，モンテカルロ国際テレビ祭などに向けて，68本を制作した。

また，国際放送「NHKワールド」向けの英語版番組の制作を受託している。08年度は，『サイエンスZERO』『ハイビジョンふるさと発』『美の壺』『解体新ショー』『あしたをつかめ』の5番組を制作した。

「NHKワールド」では，視聴者対応業務および広報業務を実施した。

09年2月から㈱日本国際放送による新しい国際放送が始まった。行政機関として初めて農林水産省の資金により英語番組『Delicious NIPPON』を制作し，日本の食材情報を海外に向けて発信した。

3．NHKエンジニアリングサービス

NHKの研究開発成果の技術移転，保有特許などの周知・あっせんにより最新放送技術を幅広く社会に還元する活動を行った。

08年度は地上デジタル放送の普及促進関連業務を重点目標として，地上デジタル放送受信状況調査，ユビキタス特区におけるマルチワンセグメントサービスの実証実験参画，共聴施設のデジタル化設計，普及に向けた講習会を実施したほか，NAB等でのスーパーハイビジョンの展示および国際伝送実験への技術支援のほか，月周回衛星からのハイビジョン映像伝送の受信業務支援を行った。

また，超高感度カメラの医療応用，話速変換技術の応用展開，三次元形状計測カメラ，リアルタイムCG番組作成システム，高精細映像カメラセンサー等の開発実用化，美術館などの映像・音響設備の整備・保守，超高層建造物によるテレビ受信障害予測の技術協力などを実施した。

教育普及業務としては，デジタル放送関連技術セミナー，技術資料・標準画像の頒布などにより技術者育成，新技術普及に努めた。

4．NHK放送研修センター

NHK職員に対する研修は，「公共放送人としての自覚と倫理の向上」と「デジタル時代をリードするスキルの養成」をねらいとし，入局から3～4年を「人材育成重点期間」として実施する基礎研修のほか，コンプライアンスの推進，職員倫理・公金意識の徹底，管理職・デスク層のマネジメント力の強化，各職員層に合わせた能力開発や意識改革を推し進める研修などを実施した（85研修114回，受講者数3,978人）。

このほか，e－ラーニングにより「NHK倫理・行動憲章，行動指針」や「放送倫理」など10コースを実施した（受講者数1万7,345人）。

民間放送局，海外放送局，ケーブルテレビ局，制作プロダクションに対しては，番組制作のノウハウ，放送技術の基礎や最新技術の知識・技能習得を図る研修を実施した。特にケーブルテレビ局を対象に，無線利活用をテーマにした「ギャップフィラーとWiMAX」や「地域密着サービスの創造～わが社の自主制作番組」など新しい研修を企画・実施した。

民放連関連では，放送倫理をテーマとする「放送人基礎研修」や，若手技術者を対象とした「テレビ技術研修会」を実施した。

海外の放送局に対しては，国際協力機構（JICA）からの委託による番組制作・放送技術・管理関係の研修のほか，韓国，中国，タイの放送局を対象に，テレビ番組，放送事業，放送技術についての研修を実施した。

ことばコミュニケーション事業では，「話しことば通信添削講座」「日本語センタースクール」「先生のためのことばセミナー」「朗読事業」「企業・団体研修」などを実施した。

また，コミュニケーションが苦手な子どもが増えているといわれる中，教育現場に出かけスピーチや朗読といった表現の楽しさを，子どもたちに感じてもらう活動をアナウンス室とともに取り組んだ。

このほか，放送のバリアフリーを目指すNHKの生字幕放送や生解説放送の拡充にも協力し，特に08年度は北京オリンピック・パラリンピックを一手に担った。

5．日本放送協会学園

NHKの教育番組を利用して通信による高等学校教育を行い，放送の利用促進に寄与しているほか，NHK教育番組の充実改善に協力している。また，生涯学習に関する通信教育や介護福祉士，社会福祉士の国家資格取得のための通信教育も行っている。

〔通信制高等学校〕

NHKの放送を利用して学ぶ広域通信制高校で，本校のほか，全国33の協力校等でスクーリングを実施。普通科（3年制）は08年度からは単位制の

教育課程に変更。3,925人が在籍。卒業生は1,050人，卒業生の総数は6万4,396人となった。希望科目を履修する科目履修生は51人，単位認定のない特科では国内外で129人が学んだ。

〔通信制福祉教育〕

通信制の福祉専攻科（2年間で国家資格の「介護福祉士」の受験資格を取得）は，学生総数3,123人，修了生1,159人，修了生総数3万332人となった。社会福祉士養成課程（2年間で国家資格の「社会福祉士」の受験資格を取得）は，学生総数562人，修了生244人，修了生総数1,501人。国家試験合格率は全国平均の約2.3倍。

〔生涯学習通信講座〕

通信制の生涯教育講座で，書道，写真，俳句短歌，語学，実用講座など216講座・コースを開設し，対面型のオープンスクールも含め，国内外で年間約11万1,000人が受講した。受講者総数は延べ約500万人に達する。

6．NHK交響楽団

オーケストラ演奏により，音楽芸術の向上発展を図り，その社会文化的使命を達することを目的とした団体である。08年度は準・メルクル，ジャナンドレア・ノセダ，イルジー・コウト，名誉音楽監督のシャルル・デュトワ，デーヴィッド・ジンマンといった国際的に活躍する指揮者を招聘（へい）し，その演奏が注目を集めた。演奏内容の充実と芸術性の向上を図り，幅広い聴衆の確保に努めるとともに財政基盤安定のため，新たな賛助企業の開拓を行った。

また，社会貢献活動の一環としてこれまで行ってきた病院でのコンサートに加え，NHKとの共催で「NHKこども音楽クラブ」を実施。全国9つの小学校にN響のメンバーが訪れ，身近な演奏や音楽クリニックを行い話題となった。

放送面では，N響の全定期公演はFMで生放送，BS2とHV等で録画放送されたほか，ETV『N響アワー』で解説付き放送が行われた。また『N響オンステージ』が公開収録，総合テレビで放送された。

08年度は定期54回，特別9回，地方10回，契約34回の公演のほか放送演奏，レコーディングを行った。

7．NHK厚生文化事業団

少子・高齢化が進み，介護保険の見直しや障害者自立支援法が見直されるなど，福祉を支える仕組みが問われる中，視聴者のニーズに的確に応え，社会福祉の増進に資するため，NHKと一体となって，障害者福祉，高齢者福祉，ボランティア促進事業を実施している社会福祉法人。

08年度の主な事業は次のとおり。

・子どもの発達相談会や学習障害などの相談会を実施した。また，発達障害の子どもと親を対象にしたキャンプや療育キャンプを行った。

・障害者の自立と社会参加をテーマに「NHKハートフォーラム」を各放送局とともに開催した。

・NHKの「認知症キャンペーン」と連動した「認知症フォーラム」を全国で実施した。

・高齢者の健康と生きがいをテーマにしたETV『福祉ネットワーク　すこやか長寿』の公開イベントを各地で行った。

・高齢社会の生き方を描く「NHK銀の雫文芸賞2008」や，障害者の体験や福祉の実践を記録する「第43回NHK障害福祉賞」を実施した。

・障害者や高齢者の施設・団体に福祉相撲号や福祉機器を贈呈するとともに，地域で福祉活動に取り組むグループを支援する「わかば基金」では，NHKなどで使用しなくなったパソコンを提供するリサイクルパソコン支援を強化した。

・障害者の新しいスポーツ競技「2008都道府県対抗・障害者駅伝トライアル大会」を開催した。

・ビデオライブラリーのDVD化，テープライブラリーのデジタル図書化のほか，ホームページ情報の充実を図り，福祉情報提供サービスを強化した。

8．日本放送協会健康保険組合

健康保険法に基づき，被保険者と被扶養者に対して，法律で定められている保険給付および独自の付加給付を行った。また，各種検診への経費補助，メンタルヘルスケアへの対応等，疾病予防のための施策や健康の保持増進のための施策などの保健事業を実施した。08年度からの特定健康診査・特定保健指導の実施義務化に対応し，4月から特定健康診査を開始した。

9．日本放送協会共済会

NHK役職員とその家族などの生活向上と，退職者とその遺家族の救済，援護等を行うために，食堂の運営，物品販売，生涯生活設計相談，各種給付・貸付，各種保険の団体扱いおよび転勤者用住宅の管理・運営等の福利増進施策を行った。